

Google WorkspaceのGeminiがアプリをつなぎ始めた

自社の業務システムをAIにつなぐ3つの準備

2026年10月09日 | <https://dnd-inc.jp/blog/core-system-ai-integration-readiness.html>

2026年9月、Google WorkspaceのGeminiが複数のアプリをまたいで動作する機能の展開が始まりました。AIが「システム間を横断する主体」に変わりつつある今、自社の受注管理・顧客データベース・在庫管理はAIに届く状態になっているでしょうか。3つの確認点と準備ステップを整理します。

この資料の要点

- ・2026年9月、GeminiがGmail・Docs・Sheets・SlidesをまたいでWorkspace内で横断動作する機能が展開された（Google公式発表）。
- ・自社の基幹システム（受注・顧客・在庫・案件）はWorkspaceとは別のシステムであることが多く、「Workspaceで便利になること」と「自社の核となるデータをAIが扱えること」は別の問題。
- ・AI連携できるシステムの条件は3つ：①データを取り出す手段がある、②データが構造化されている、③項目名・分類が一貫している。

1. Google Workspaceで起きていること

Googleは2026年9月（段階的ロールアウトは9月2日開始）、Google WorkspaceのGeminiがアプリをまたいで動作する機能を発表しました。

Gmail・Docs・Sheets・Slides・Driveのサイドパネルから、ひとつの指示でドキュメント作成・メール下書き・会議の予定登録・ToDoの追加ができるようになります。

これはAIが「単体ツールの補助」から「システム間を横断する調整役」に変わったことを示す動きのひとつです。ただし、この恩恵を受けられるのは現在のところ、Google・MicrosoftなどのクラウドSaaS内に限られています。

2. 自社の基幹システムには、AIが届いているか

多くの中小企業では、業務の核となるデータが自社独自のシステムに存在しています。受注管理・顧客データベース・在庫管理・案件管理——これらはGoogle Workspaceや汎用のSaaSとは別のシステムに入っていることがほとんどです。GeminiがGmailと連携できても、自社の受注管理システムのデータにGeminiは届きません。

AI連携の「断絶」が生まれる3つの場面

- ・場面①：売上確認を毎朝手動でしている——受注データが自社システムにあり、AIに手動で貼り付けなければ分析できない
- ・場面②：問い合わせ対応のたびに別システムを開く——顧客履歴・契約内容がバラバラで、AIが一括参照できない
- ・場面③：新しいAIツールを試したが使い物にならなかった——自社システムからデータを取り出す手段がなかった

3. 自社で確認できる5つのポイント

#	確認すること	できていない場合の影響
1	システムにAPIまたはエクスポート機能があるか	AIとの連携が手動に頼る
2	データが構造化されているか（項目が分かれているか）	AIがデータの意味を読み取れない
3	項目名・分類・コードが一貫しているか	

#	確認すること	できていない場合の影響
		AIが同一対象を別物として扱う
4	システムを作った会社・担当者と連絡が取れるか	改修・API追加の依頼先がない
5	直近1〜2年に機能変更の対応を受けたか	サポートが実質的に切れている可能性

4. AI連携できる状態にするための3ステップ

ステップ1：「データを出せる窓口」を作る

既存システムにAPIエンドポイントを追加、またはCSV・JSONで定期的にデータを出力できる仕組みを作ります。まず「読み込み（Read）」の窓口だけでも、AIを活用できる幅は大きく広がります。

ステップ2：データを「AIが使いやすい形」に整える

ひとつのセルへの詰め込み・日付形式のバラつき・表記ゆれを整理します。データの整理は、AIを入れる前の「土台づくり」です。

ステップ3：「AI連携前提」で次のシステムを設計する

次に新しく作る・改修するときには、外部APIで読み書きできる設計・データ項目の粒度の細かい定義・Webhookによるリアルタイム通知を最初から組み込みます。今この設計を省くと、AIを導入するたびに改修コストが発生します。

株式会社DnDにできること

既存システムへのAPI追加・データ整備支援、AI連携前提の新規システム開発、業務フローの整理と設計支援を行っています。「どこから手をつければいいかわからない」という段階からご相談いただけます。ご相談・お見積りは無料です。

<https://dnd-inc.jp/contact.html>